



Pick Up News

夏休みも折り返しを迎えました。皆さんは、この夏をどのように過ごしているでしょうか。旅行や帰省、友人との時間を楽しんでいる人もいれば、研究や設計課題に取り組んだり、企業インターンシップやオープンデスクなど、普段の大学生活では得られない経験を積んでいる人もいます。今回の学部通信は「大学院特集」です。大学院では、学部で身につけた知識や技術をさらに深め、自らテーマを設定して研究に取り組むなど、より専門的な学びが広がります。また、研究室での活動や学会発表、企業との共同研究などを通して、専門分野の知識だけでなく、課題を発見し、考え、成果を発信する力も身につけることができます。今年度、本学科の石井敏教授が日本建築学会賞（論文）を受賞されたことも、長年にわたる研究の積み重ねと成果の一つです。大学院での学びは、建築をより深く探究し、自分の興味や可能性をさらに広げる機会となります。もちろん、大学院に進学するか、卒業後に社会へ出るか、進路は一人ひとり異なります。大切なのは、自分がどのようなことを学び、どのような建築に関わっていきたいのかを考え、自分自身の進路を主体的に選択することです。この夏休みは、これまでの学びを振り返り、これからの自分について考える時間にもしてほしいと思います。夏休みも残すところ約3週間です。心と体をしっかりとリフレッシュするとともに、新しいことに挑戦したり、普段とは違う場所や建築に触れたりしながら、自分自身の視野を広げてください。残りの夏休みを有意義に過ごし、気持ちを新たに後期を迎えてもらえればと思います。

大学院特集：「学び」を、もっと自由に。 建築の未来をひらく大学院進学～学部卒業後の進路／在学生の声～

今月と来月号は「大学院特集」！今年度も定員を大きく上回る21名が建築学専攻に進学し、大学院はますます活気づいています。ここ数年、大学院への進学希望者がじわじわと増加中。その背景には何があるのでしょうか。「もっと深く学びたい」、「社会に出る前に自分の専門性を高めたい」・・・。そんな思いを胸に進学を決めた学生たちの「リアルな声」を通じて、進学という選択肢の意味を探ります。建築をもっと追究したいあなたへ。未来のヒントがここにあるかも知れません。

質問事項1. 大学院を志した理由 / 2. 進学を決めた時期 / 3. 大学院で学んでの感想 / 4. 学部生へのメッセージ

- ① T. Tさん (D2) 1. 研究を続けてみたかったから。/ 2. 学部2年生 / 3. 研究を通してしか学べない多くの経験を得ることができた。/ 4. 視野を広げたい方はぜひ選択肢の一つとしていただければと思います。
- ② K. Oさん (M2) 1. 大学院ならではの経験を通して、より多くのことを学びたいと思ったため。/ 2. 学部3年の2月頃 / 3. 研究活動や学会発表など、大学院だからこそできる多くの経験を得ることができた。/ 4. 大学院では、自分の興味のある分野についてより深く学ぶことができます。少しでも進学に興味がある方は、選択肢の一つとして考えてみてください。
- ③ S. Hさん (M1) 1. 学部入学時から大学院に興味を持っていた、研究室配属以降自分の研究が楽しく感じ、希望通り継続したいと感じたから。/ 2. 大学1年生8月頃 / 3. 責任が伴うけれど自分らしいやり方で研究することができる。/ 4. 就職と同じく大学院進学は自分の将来の可能性を増やす選択肢の一つだと思います。進路について悩んでいる方がいたら是非先生方や研究室の先輩方の力を借りることも考えてみてください。
- ④ Y. Tさん (M1) 1. 建築についてより深く学び、新たな知識やスキルを身に付けて地震の成長につなげたいと思ったから。/ 2. 学部3年生の12月頃 / 3. 自分のやりたい研究にじっくり時間を使って取り組めることが、大学院の魅力だと思います。/ 4. 大学院では自分の興味のある分野に取り組むことができるため、ぜひ進学を考えてみてください。

石井敏教授が日本建築学会賞（論文）を受賞しました

建築学科の石井敏教授（副学長）が、「環境行動学的視点に立脚した認知症および要介護高齢者施設の建築計画に関する一連の研究」で2026年日本建築学会賞（論文）を受賞しました。同賞の贈呈式が、5月29日に建築会館（東京）にて行われました。日本建築学会賞は建築学分野における日本で最も権威のある賞とされています。認知症や要介護高齢者施設において、空間や物理的環境が生活とケアの質向上に果たす役割を環境行動学的視点から実証し、介護施設の建築計画的知見を提示し、また「ケア環境の建築計画学」を確立し、超高齢社会の福祉及びケア環境構築に貢献した約30年にわたる一連の研究業績が評価されたものです。



Pick Up Lab. 中村研究室は日本建築史を専門とする研究室です。寺院・神社や民家、近代和風住宅や茶室などのさまざまなジャンルの伝統木造建築を研究対象としています。意匠や技術、素材の観察を重視したフィールドワーク（実測調査）、その成果に基づいた歴史的価値の評価が専門分野です。また、学術的評価に基づいて、地域の自治体や建築家、まちづくり団体と連携した歴史ある建物の修復や活用の実践活動も進めています。最近では、時代考証を工夫した展示模型の制作や実測図面のパネル化・アーカイブなど、東北各地の地域ミュージアムとの連携活動も大切にしています。



伝統建築の実測調査の様子（一関市）



博物館展示模型の制作（陸前高田市）

Pick Up Student

入学して、あっという間に1年半が経とうとしています。入学前は、「普通高校からでも大丈夫かな。物理もほとんど分からないけれど.....」という不安を抱えていました。しかし、入学後は必要な科目を基礎から学び、分からないことがあれば友達や先生方に教えてもらいながら、少しずつ理解を深め、今では安心して学ぶことができています。そして、今私が一番やりがいを感じ、楽しいと思っているのが建築設計です。限られた時間の中で課題を完成させることは大変ですが、自分の想像したものが少しずつ形になっていく過程に楽しさを感じます。また、友達の実作を見ることで、自分では思いつかなかった形やアイデアに出会えることも、設計の魅力だと思っています。これからもさまざまな作品や考えに触れ、自分なりの建築を見つけていきたいです。

2年 M. Kさん
仙台育英学園 出身4年 H. Sさん
古川高校 出身

Pick Up Student

大学に入り4年が経ち、残りも半期となりました。大学院の春季推薦にも合格し、進路についても安心して過ごせるようになりました。私は昨夏、単身でイングランドに約1ヶ月間ホームステイをしました。初めての海外ということで不安もありましたが、無事に帰国することができました。滞在中は、好きな作家の建築物やサッカーチームのスタジアムを巡り、さらに移民の多いイングランドで多くの人と交流しました。その中で、建築分野の知見だけでなく、異なる文化や価値観に触れることで、人間性もより豊かに成長できたと感じています。この経験を活かし、今後も多種多様な社会の中で活躍できる人材を目指していきたいです。